

令和4・5・6年度 盛岡市教育委員会研究指定 中間発表

夢をもち、明るい未来を拓く生徒の育成
～つながりと連続性を意識した学びを通して～

盛岡市立下橋中学校

1

I 研究主題

夢をもち、明るい未来を拓く生徒の育成
～つながりと連続性を意識した学びを通して～

2

Ⅱ 主題設定の理由

夢をもち、明るい未来を拓く生徒の育成

予測不能で激変する社会や地球環境となることが考えられる中で、持続可能な明るい未来を目指し、人間らしさや自分らしさを大切にしながらたくましく生きる生徒の育成が必要であると考えたため。

(資料参照：OECDラーニングコンパス2030「学びの羅針盤」)

3

Ⅱ 主題設定の理由

～つながりと連続性を意識した学びを通して～

「つながり」を意識した学び

- ・生徒に学びが地域や社会と関連していることに気づかせることで、主体的な学びを促す。
- ・環境、復興、先人、NIE、SDGs、各教科の学びの関連、教科の系統性などを意識する。

4

Ⅱ 主題設定の理由

～つながりと連続性を意識した学びを通して～

「連続性」を意識した学び

教科の具体的な実践の他に、本校の特色ある取組などとの関連を図った研究の積み重ねを大切にしながら、今後求められる課題解決についても対応した学びをデザインする。

5

Ⅲ 研究の目標

夢をもち、明るい未来を拓く生徒の育成
～つながりと連続性を意識した学びを通して～

主題に迫るためのプロセス（目指す生徒像）

- ①学校での学びと地域や社会とのつながりを実感する
- ②地域や社会の問題に気づき、解決しようとする
- ③問題を解決するために課題を設定する
- ④課題を達成するために学校での学びをもとに実践する
- ⑤実践を振り返り、明るい未来を拓くために再度行動する

※つながりと連続性を意識した学びを積み重ねることで、主題に迫ることができると考える。

6

Ⅳ 目指す生徒の姿

【学校教育目標】切磋琢磨し、誠実に生きる生徒

- ・意欲をもって主体的に学び、創意工夫する生徒〈知〉
- ・強い意志と思いやりをもち、共に生きる生徒 〈徳〉
- ・自他を大切にし、心身を鍛えるたくましい生徒〈体〉
- ・夢や希望をもち、郷土・社会に貢献する生徒 〈夢〉

7

Ⅴ 本校生徒の様子

全国学調の質問紙の結果

○県平均以上

- ・将来の夢や希望をもっている
- ・自分には、よいところがあると思う
- ・学校の授業以外の学習時間
- ・新聞を読んでいる
- ・授業でのICT機器の使用
- ・話し合い活動で考えを深め、広げる
- ・学んだことを生かしてまとめる
- ・分かった点、分からなかった点を次の学習につなげる

8

V 本校生徒の様子

全国学調の質問紙の結果

●県平均以下

- ・人が困っているときに進んで助ける
- ・自分と違う意見について考えることが楽しい
- ・地域の行事への参加
- ・地域や社会をよくするために何かしてみたい

9

VI 研究の基本的な考え方

- 1 全職員で共通理解し、同じ視点を持ち、足並みをそろえて進める。
- 2 すぐに結果が出なくとも継続することで身に付けられる力の育成(振り返り、N I Eなど)。
- 3 本校で受け継がれてきた研究内容を大切にしながら持続可能な研究を行っていく。
- 4 同教科ではもちろん、異なる教科でも互見授業を行い、いつでも見合い、高め合う。

10

VII 研究の実践 | これまでの本校の研究

○平成24年度 学校公開

- ・主体的なノートづくり（吹き出しの活用）
- ・4段階の学習過程

○平成28年度 学校公開

- ・振り返り、リフレクション

○令和2年度 学校公開（紀要のみ作成）

- ・SDGs、3観点の評価に基づいた通知表

11

VII 研究の実践 2 具体的な研究実践【連続性】

内 容	具体的な取り組み
(1) 教科における見方・考え方を働かせた授業の充実	・学習指導要領に基づいた指導力向上に向けた実践
(2) 指導と評価の一体化を図る	・単元配列表、年間学習計画表、具体的な評価内容 ・評価内容を生徒や保護者へ開示(学習のてびき) ・単元ごとの評価を示した通知表
(3) 4段階の学習過程を基本とした授業展開	①課題・見通し ②自力思考・探究 ③協働思考・深化 ④学習整理
(4) 小中連携で取り組む板書スタイル	課題・・・青囲み まとめ・・・赤囲み (生徒のノートも同じ色)
(5) 探究的な学びを導く課題設定	・生徒が意欲的、主体的に取り組める課題の設定 ・教科の「見方・考え方」を使って課題を見いだす ・発展的な学びを引き出す課題の設定 ・すべての授業で学習課題を設定する
(6) 授業の「見通し」を示す	・授業のはじめに本時の内容や見通しを生徒に示す

12

VII 研究の実践 2 具体的な研究実践【連続性】

内 容	具体的な取り組み
(7) 主体的な「ノートづくり」の指導	<ul style="list-style-type: none"> ・板書以外に自分なりに学んだことを、吹き出しを活用して記入させる ・生徒の思考を可視化し、見取る手立てとする ・参考にさせたいノートを掲示する
(8) 「振り返り・リフレクション」の重視	<ul style="list-style-type: none"> ・振り返り：授業の終わり5分 ・リフレクション：単元の終わり
(9) 学習者中心のICT活用	<ul style="list-style-type: none"> ・単位時間の終わり5分に「振り返り」を行う ・単元の終わりにリフレクションを行う ・振り返りやリフレクションを活用し次に生かす
(10) 特別の教科道德の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・文房具のように活用しながら学習の質を高める ・効果的な活用方法を学び合う ・担任・副担任によるローテーション授業の実施 ・リフレクションシートの活用

13

VII 研究の実践 2 具体的な研究実践【つながり】

内 容	具体的な取り組み
(11) 環境学習を柱としたSHEL学習の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・3年間を通した系統的な学習を行う ・SDGsや「いわての教え」との関連を図る
(12) 復興教育の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・「いわての教え」の実践研究 ・小中連携、地域との関わり
(13) SDGsの取組	<ul style="list-style-type: none"> ・持続可能な未来をつくり出す力を育てる ・SDGsを身近な学校生活と関連付けるためにSDGs一覧表を参考に取る ・指導者が学習内容とSDGsとの関連を意識するため、年間指導計画にSDGsマーク表示 ・生徒が学習とSDGsとの関連を感じながら学ぶことができるよう、授業時に黒板にマーク掲示 ・SHEL学習や道德、生徒会活動(委員会活動)、NIEなどでも関連付けて取り組むための工夫

14

VII 研究の実践 2 具体的な研究実践【つながり】

内 容	具体的な取り組み
(14) N I Eの取組	<ul style="list-style-type: none"> ・新聞を読むことを通して読解力をつけるとともに社会とのつながりを感じ取らせる ・各月1週間を「N I E週間」とする ・N I Eシートにまとめさせる(3年間使用する) ・シートは掲示後、個人ファイルに綴じる ・授業でも新聞を積極的に活用する
(15) 先人教育	<ul style="list-style-type: none"> ・10月の朝読書期間を先人読書週間とする ・本校卒業生の業績を理解させ、誇りをもたせる ・三年間を見通した「盛岡の先人」の活用

15

VII 研究の実践 3 校内研・教科部会等

月日	教科	内容等
4月5日	全教科	教科部会・研究班会議
4月27日	数学	本校研究基本スタイル授業参観と研究会
6月13日	音楽	教科研究会
6月15日	数学	教科研究会
8月17日	全教科	教科部会・研究班会議
8月23日	社会	教科研究会
8月29日	英語	教科研究会
9月6日	国語	全体校内研究会
11月1日	技術	教科研究会
11月15日	理科	全体校内研究会
1月10日	全教科	教科部会・研究班会議

16

VIII 今年度の重点

1 単元構想の工夫

- (1) 日常生活(環境、SDGs、復興、各教科など)と単元内容を関連させた単元全体の課題設定
- (2) 全教科一覧となった年間学習計画の作成
- (3) 単元の構想をまとめた新たな学習指導案のスタイルの検討

2 「ノート」と「ICT」の効果的な活用

- (1) 「ノート」と「ICT」の併用
- (2) ノートの書き方指導、吹き出しの活用、ノート掲示
- (3) 板書の在り方
- (4) 学習履歴の蓄積、活用

3 「振り返り」「リフレクション」の活用

- (1) 振り返りシートの研究
- (2) レポート(プレゼン)による評価の研究

17

VIII 今年度の重点 | 単元構想の工夫

- (1) 日常生活(環境、SDGs、復興、各教科など)と単元内容を関連させた単元全体の課題設定

実践例

国語科 第2学年「モアイは語るー地球の未来」

生徒自らの手で単元の学習課題を設定し、
生徒を主体とした単元構想を行う

18

実践例 国語科 第2学年「モアイは語る－地球の未来」 生徒自らの手で単元の学習課題を設定し、生徒を主体とした単元構想を行う

国語科学習指導要領

1 対象・日時 令和5年9月4日(水) 5時間

2 単元名 モアイは語る－地球の未来

3 本単元で達成したい学習・能力(学習目標)

学習目標	学習・活動	単元に学ぶことに関する学習目標
1 国語の表現や構成について理解し、より適切な表現の工夫について理解している。(2) 3 3)	国語の表現や構成について理解し、より適切な表現の工夫について理解している。(2) 3 3)	国語の表現や構成について理解し、より適切な表現の工夫について理解している。(2) 3 3)
2 国語の表現や構成について理解し、より適切な表現の工夫について理解している。(2) 3 3)	国語の表現や構成について理解し、より適切な表現の工夫について理解している。(2) 3 3)	国語の表現や構成について理解し、より適切な表現の工夫について理解している。(2) 3 3)

4 本単元での学びのねらい

本単元を通して、子どもたちが「モアイは語る」という学びのテーマを大切にしながら、国語の学びを通して、国語の表現や構成の学びを通じて、より適切な表現の工夫について理解し、より適切な表現の工夫について理解している。(2) 3 3)

5 単元計画(単元構成)

日	時	ねらい・学習活動	評価項目・評価方法
1	1	「モアイは語る」の導入	導入評価
1	2	「モアイは語る」の導入	導入評価
1	3	「モアイは語る」の導入	導入評価
1	4	「モアイは語る」の導入	導入評価
1	5	「モアイは語る」の導入	導入評価
2	1	「モアイは語る」の導入	導入評価
2	2	「モアイは語る」の導入	導入評価
2	3	「モアイは語る」の導入	導入評価
2	4	「モアイは語る」の導入	導入評価
2	5	「モアイは語る」の導入	導入評価
3	1	「モアイは語る」の導入	導入評価
3	2	「モアイは語る」の導入	導入評価
3	3	「モアイは語る」の導入	導入評価
3	4	「モアイは語る」の導入	導入評価
3	5	「モアイは語る」の導入	導入評価

6 本単について

(1) 学習目標

国語科の観点から本単元を学習し、生徒の考えをより深めよう。

(2) 単元

学習	学習内容・学習活動	単元上の視点・評価
1 導入	「モアイは語る」の導入	導入評価
2 学習目標の確認	単元の学習課題を再確認しよう	単元の学習課題を再確認しよう
3 本単元の見直し		
4 学び	「モアイは語る」の導入	導入評価
5 学び	「モアイは語る」の導入	導入評価
6 学び	「モアイは語る」の導入	導入評価
7 学び	「モアイは語る」の導入	導入評価
8 学び	「モアイは語る」の導入	導入評価
9 学び	「モアイは語る」の導入	導入評価
10 学び	「モアイは語る」の導入	導入評価
11 学び	「モアイは語る」の導入	導入評価
12 学び	「モアイは語る」の導入	導入評価

- 学習経験を基に、この単元で何ができるのかについて様々な視点から考えることができた。(経済、宗教、大陸との交易→社会 自然環境→理科 食糧問題、環境問題→SHELL学習)
- 生徒自らの手で単元の課題を設定する授業を通して、本単元の学習と身の回りの様々なこととのつながりを実感し、単元の学習への意欲を高めることができた。

VIII 今年度の重点 | 単元構想の工夫

(2) 全教科一覧となった年間学習計画の作成

- 教科間のつながりを確認するために作成
- 単元名だけでは分かりにくく、SDGsマークやキーワードを入れるなど検討しながら作成中

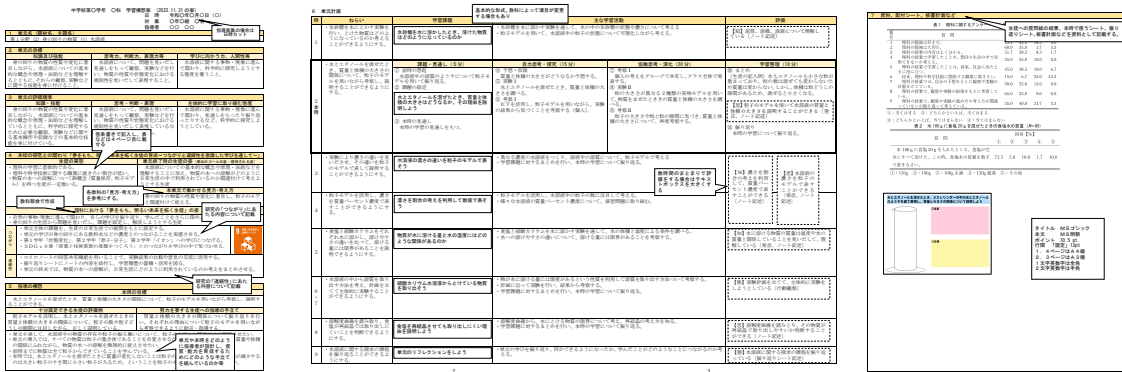
令和5年度 第1学年 授業計画

	国語	社会	数学	理科	英語	音楽	美術	保健
4	朝のりレー 野原はうたう	世界の姿 日本地図	数の性質 正負の数	いろいろな物質とその性質	ようこそ 茨城県中学校へ	悪いを込めた合奏	美術との出会い 絵巻を描く	
5	ランクション	日本の姿 世界地図	加法と減法 乗法と除法	いろいろな物質とその性質	Program 1 友だちと作るうた	曲の構成 歌謡表現の工夫	写生会 水のある美しい公園を描く	
6	ダイノミキキ	人間の姿 動物の姿	乗法と除法 分数の性質	植物の特徴と分類	Prog2 1-Bの生徒たち	曲想を伝へる 歌謡表現の工夫	水辺の風景 水のある美しい公園を描く	
7	動物の姿	動物の姿	分数の性質	動物の特徴と分類	Prog3 ショーを創ろう	曲想を伝へる 歌謡表現の工夫	水のある美しい公園を描く	
8	大人になれたかな	農林社会の発展	分数の性質	動物の特徴と分類	Prog4 Let's enjoy Japanese Culture.	イメージと音楽の関わり	音楽を通して スケッチを創ろう	
9	アザノ	アザノ	分数の性質	身近な大地	Prog5 Junior Safety Patrol.	日本の歌のよさ、美しさ	音楽を通して スケッチを創ろう	
10	火をふく大地	火をふく大地	分数の性質	火をふく大地	Prog6 The Way To School.	曲想を伝へる 歌謡表現の工夫	なりきり口ゴザイン	
11	水資源の性質	水資源の性質	分数の性質	水資源の性質	Prog7 Reserch on Australia.	音のつながり	音楽を通して スケッチを創ろう	
12	先による現象	先による現象	分数の性質	先による現象	Prog8 The Year-End Event.	曲想を伝へる 歌謡表現の工夫	音楽を通して スケッチを創ろう	
1	昔による現象	昔による現象	分数の性質	昔による現象	Prog9 A Trip to Finland.	日本の歌のよさ、美しさ	音楽を通して スケッチを創ろう	
2	力による現象	力による現象	分数の性質	力による現象	Prog10 Gutsuo Akoy.	曲想を伝へる 歌謡表現の工夫	音楽を通して スケッチを創ろう	
3	学習のまとめ	学習のまとめ	分数の性質	学習のまとめ	Prog11 Project3.	曲想を伝へる 歌謡表現の工夫	音楽を通して スケッチを創ろう	

Ⅷ 今年度の重点 1 単元構想の工夫

(3) 単元の構想をまとめた新たな学習指導案のスタイルの検討

- ・ A3表裏1枚（4ページ）にまとめる
- ・ 単元計画の中に本時の展開を入れる（見開き）



21

Ⅷ 今年度の重点 2 「ノート」と「ICT」の効果的な活用

(1) 「ノート」と「ICT」の併用

- ・ ICTを文房具として使えるようにするため、使用場面を意図的に増やす
授業での意見交流、行事の振り返り、生徒会活動・・・
- ・ 「ノート」と「ICT」を生徒が選択できる授業
生徒が選ぶことができるような授業デザイン
- ・ 授業者が意図を持って「ノート」と「ICT」を使い分けさせる
「ノート」→自由な発想を求めるとき
「ICT」→考えをまとめる・記述する・発表する

22

VIII 今年度の重点 2 「ノート」と「ICT」の効果的な活用

(2) ノートの書き方指導、吹き出しの活用、ノート掲示

- ・板書以外に自分なりに学んだことを、吹き出しを活用して記入させる
- ・生徒の思考を可視化し、見取る手立てとする
- ・参考にさせたいノート（デジタルノート含む）を掲示する

23

VIII 今年度の重点 2 「ノート」と「ICT」の効果的な活用

(3) 板書の在り方

- ・黒板に板書する内容
- ・テレビやスクリーンを使用して見せる内容
- ・生徒のタブレットに画面配信をする内容

24

VIII 今年度の重点 2 「ノート」と「ICT」の効果的な活用

(4) 学習履歴の蓄積、活用

- ・ 振り返りシートに学習内容のノートやシートを添付
- ・ eライブラリやデジタルワークでの課題

25

VIII 今年度の重点 3 「振り返り」「リフレクション」の活用

(1) 振り返りシートの研究（全教科で入れたい内容）

- ・ 単元の目標や評価規準
- ・ 単元(題材)を通して思考の変化や流れが分かる構成
- ・ 学習したシートの蓄積
- ・ 記述の視点

学びの過程や成果

他教科や身の回りのこととのつながり

学びに向かう姿勢 等

26

VIII 今年度の重点 3 「振り返り」「リフレクション」の活用

(2) レポート(プレゼン)による評価の研究

- ・ 単元内容の確認
【知識・技能】
- ・ キーワードなどを使用して単元の内容を説明
【思考・判断・表現】
- ・ 単元の学習に臨む姿勢、身の回りのこととのつながり
【主体的に学習に取り組む態度】

27

IX 今年度の成果と課題

I 成果

- ・ これまでの研究を再確認しながら、新たな取組を実践することができた。
- ・ 年間学習計画や新しい学習指導案のスタイルをある程度形にすることができた。

28

IX 今年度の成果と課題

2 課題

- ・研究主題に迫るための手立てや副題の捉え方に不明瞭さがあったため、さらに整理する必要がある。
- ・今年度の重点として取り組んだ実践をさらに継続し、有効性を検証する必要がある。